

<p>Editorial</p> <p>新たな薬害の危険性に対し、何ができるか 27</p>	<p>Topic</p> <p>妊婦への「アブリスボ[®]」定期接種はリスク大 42</p>
<p>総説</p> <p>糖尿病診療ガイドライン 2024 28 <small>インスリンを重視し、血糖値目標は緩めるべき</small></p>	<p>害反応</p> <p>片頭痛用トリプタンと母乳育児：乳房の痛みと射乳困難 45</p>
<p>New Products</p> <p>糖尿病用インスリンイコデク（アウィクリ注[®]） 34 <small>正しく取り扱えば2型糖尿病の人に有用</small></p>	<p>Others</p> <p>医師国家試験に挑戦しよう（問題） 32</p> <p>コーヒー無礼区 ピロリちゃんとの共生 33</p>
<p>薬害は終わっていない ②薬害タミフル脳症</p> <p>薬害タミフル脳症とは——医学的観点から 38 <small>インフルエンザ治療薬「タミフル」服用後に転落死… <small>秦野電子</small></small></p>	<p>FORUM</p> <p>Q&A:120号「薬機法「改正」は有害な薬剤を生む」の情報源は？ 46 <small>サリドマイド事件を読んで</small></p> <p>「薬のチェック」のHPを活用しましょう 46</p> <p>医師国家試験に挑戦しよう（正解と解説） 47</p> <p>次号予告／事務局だより／編集後記 48</p>

表紙のこぼれ：JR九州の日田彦山線にある採銅所駅は、大正時代の西洋建築の面影を残す築110年の有形文化財です。

編集部
から

少し前の話ですが、ノンフィクション作家の堀川恵子氏が慢性腎不全の夫の看取りまでの様子を記した、「透析をやめた日」という本が話題を呼びました。本書は2024年11月20日に刊行され、透析患者の終末期に生じる苦しみと、それに対する医療体制（緩和ケア）が整わない状況の問題に一石を投じました。

それまで専門家以外ほとんど人目に触れなかった透析患者の最期の苦しみを多くの人々が知ることができるようになり、2025年6月13日に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針2025」において、慢性腎臓病対策の推進に腎不全患者の緩和ケアが加わりました。また同月、南山堂から「腎不全の緩和ケア」という書籍が刊行され、同年9月には日本緩和医療学会、日本腎臓学会、日本透析医学会が協働で作成した「腎不全患者のための緩和ケアガイドランス」が公開されました。更に、2026年の診療報酬改定で、末期腎不全患者が外来・在宅での緩和ケア診療加算の対象となり、腎不全終末期患者の緩和ケア病棟受け入れが追加されます。

このことは、当事者家族が発信した1冊の本が国と学界を大きく動かしていることを証明しています。さて、本誌では前回123号から「薬害は終わっていない」と題する連載を開始し、本連載も当事者によるノンフィクションの語りに基づきます。1冊の本が国や学界を動かしたように、1つの記事もその潜在的な力を秘めています。私たちはこのことを念頭に置き、今後も編集作業にあたっていきます。（ど）